

(24) 性器クラミジア感染症

年間患者数は862人（定点あたり18.74人）で、昨年の880人（19.13人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性53%、女性47%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は25～29歳24%、20～24歳17%、30～34歳16%、35～39歳12%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は20～24歳38%、25～29歳25%、15～19歳12%、30～34歳11%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の84%を占めていた。

図 26-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者発生状況

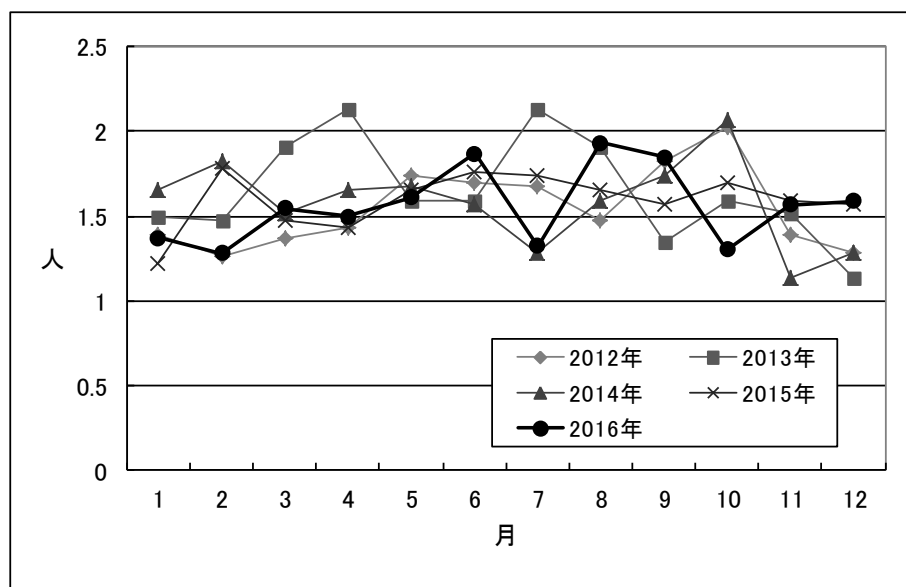


図 26-2 性器クラミジア感染症の性別患者発生割合

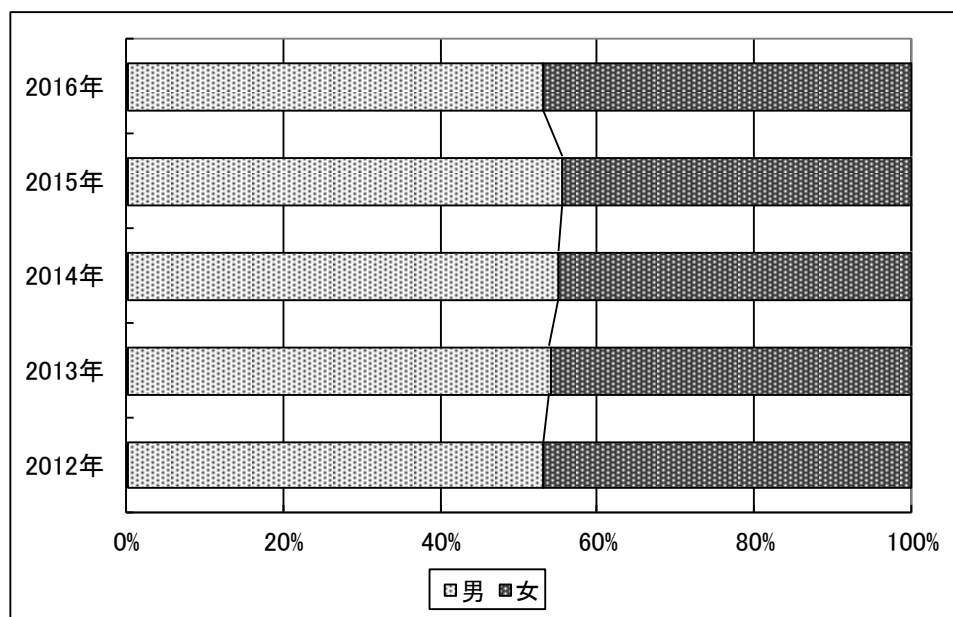


図 26-3 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

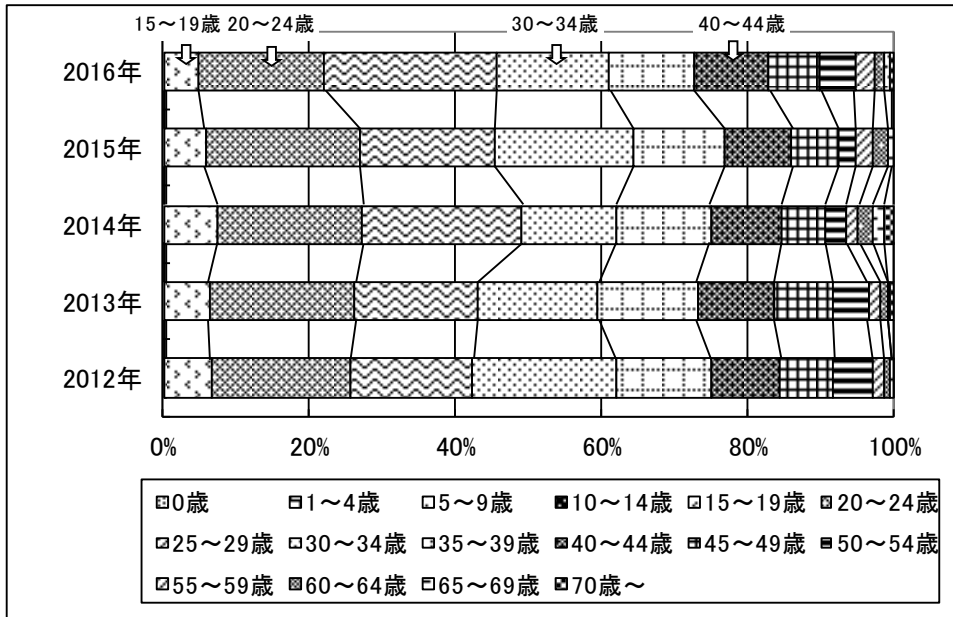
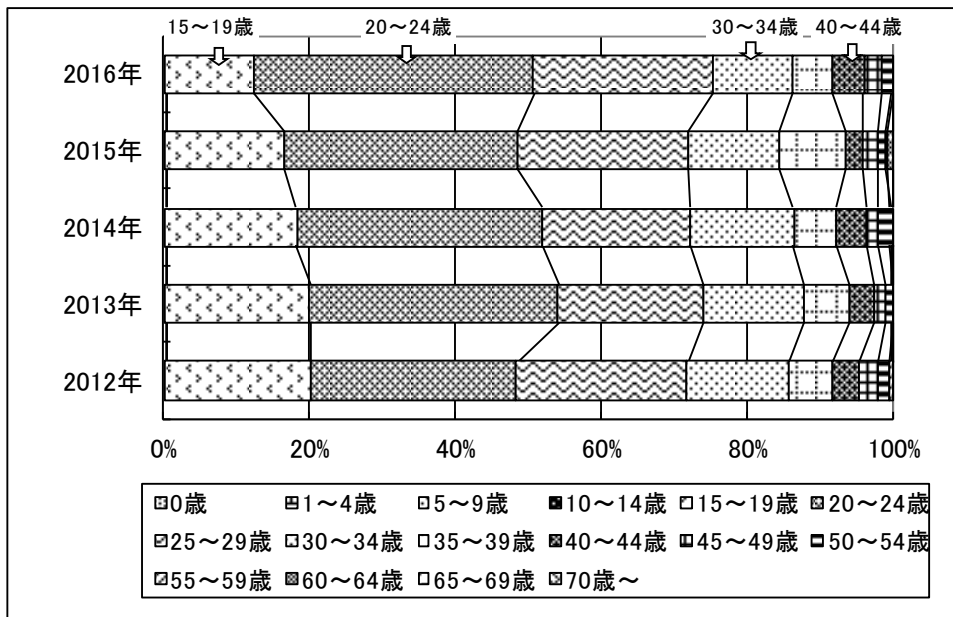


図 26-4 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(25) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は310人（定点あたり6.74人）で、昨年の303人（6.59人）よりわずかに増加した。性別患者発生割合は、男性26%、女性74%と女性の割合が大きくなった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳19%、25～29歳16%、20～24歳、30～34歳、40～44歳及び45～49歳が11%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の79%を占めていた。女性は30～34歳16%、45～49歳12%、20～24歳11%、35～39歳10%の順で多く、20～49歳の患者が女性患者の65%を占めていた。

図 27-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者発生状況

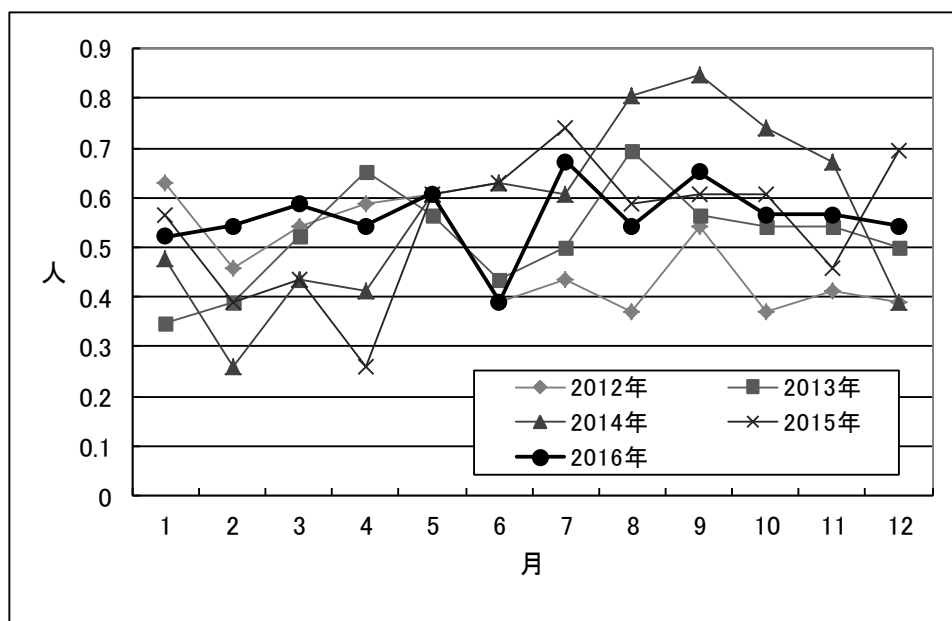


図 27-2 性器ヘルペスウイルス感染症の性別患者発生割合

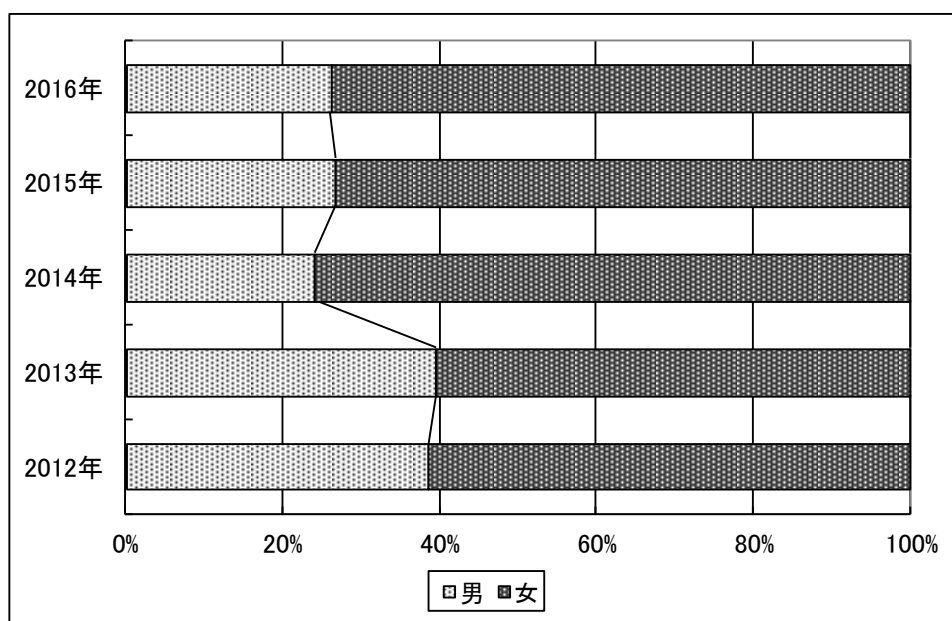


図 27-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

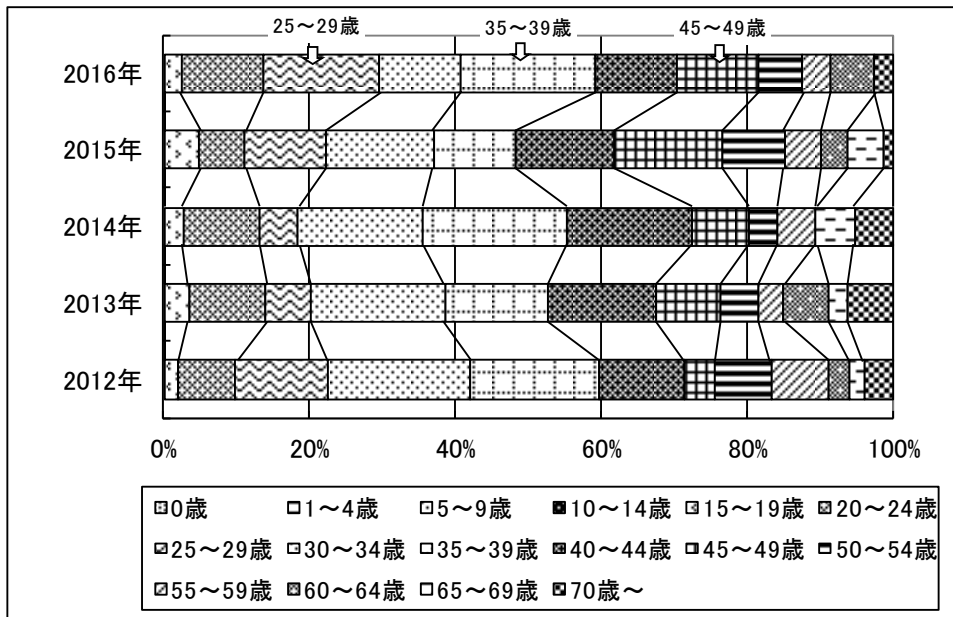
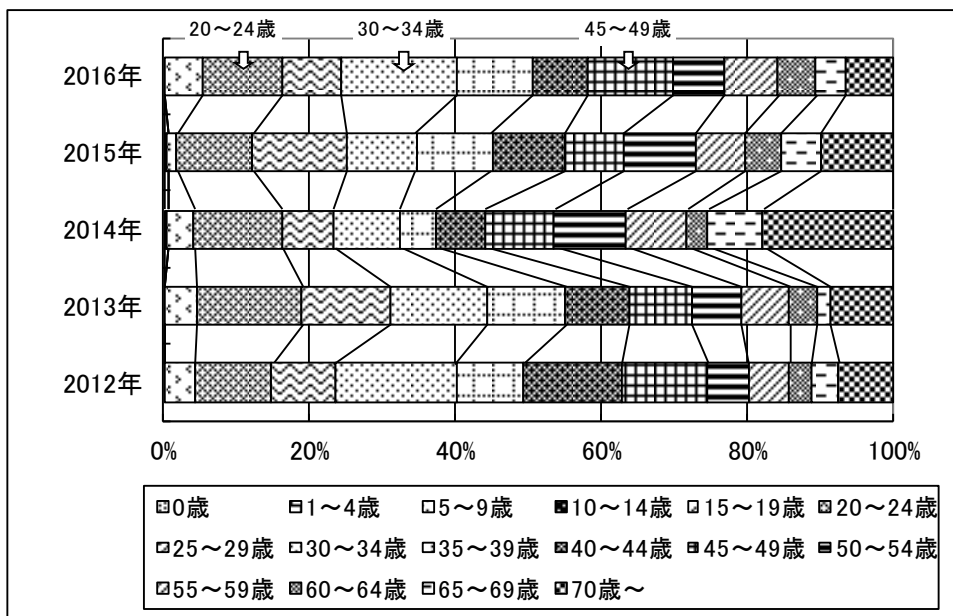


図 27-4 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(26) 尖圭コンジローマ

年間患者数は171人（定点あたり3.72人）で、昨年の185人（4.02人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性73%、女性27%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳17%、20～24歳と30～34歳15%、25～29歳13%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の81%を占めていた。女性は20～24歳30%、25～29歳26%、35～39歳15%、30～34歳9%の順で多く、20～39歳の患者が女性患者の79%を占めていた。

図 28-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者発生状況

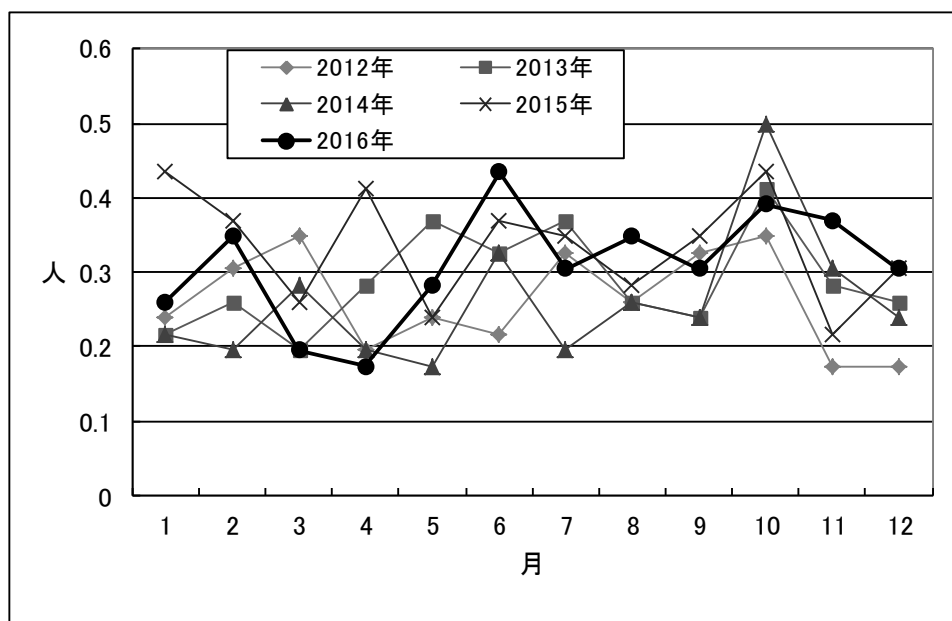


図 28-2 尖圭コンジローマの性別患者発生割合

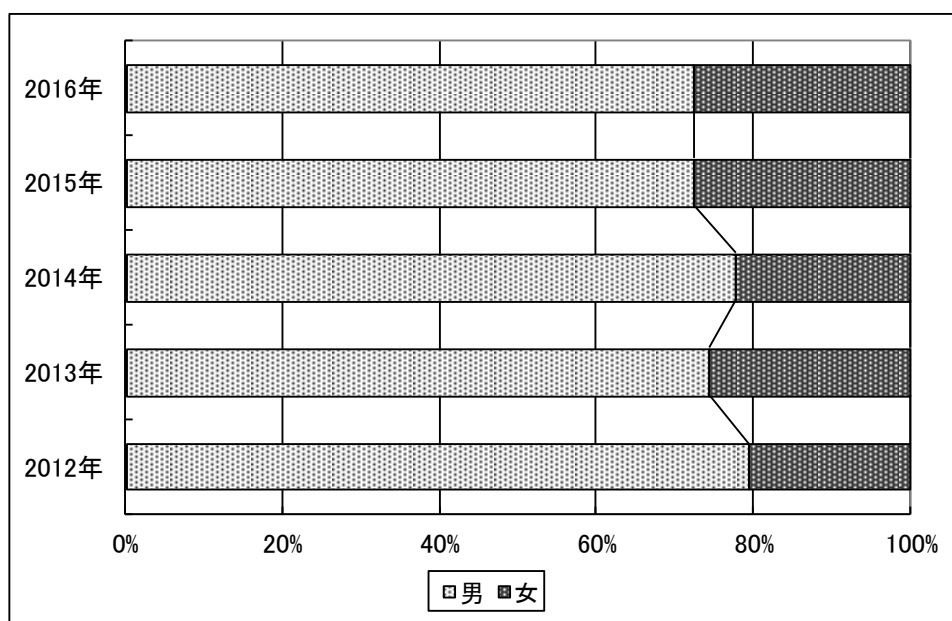


図 28-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（男性）

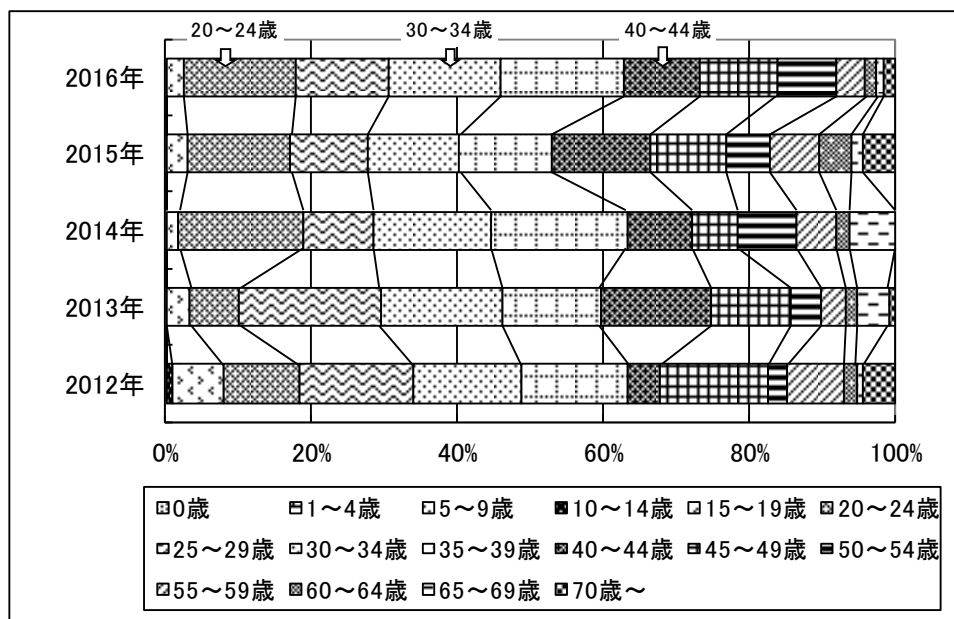
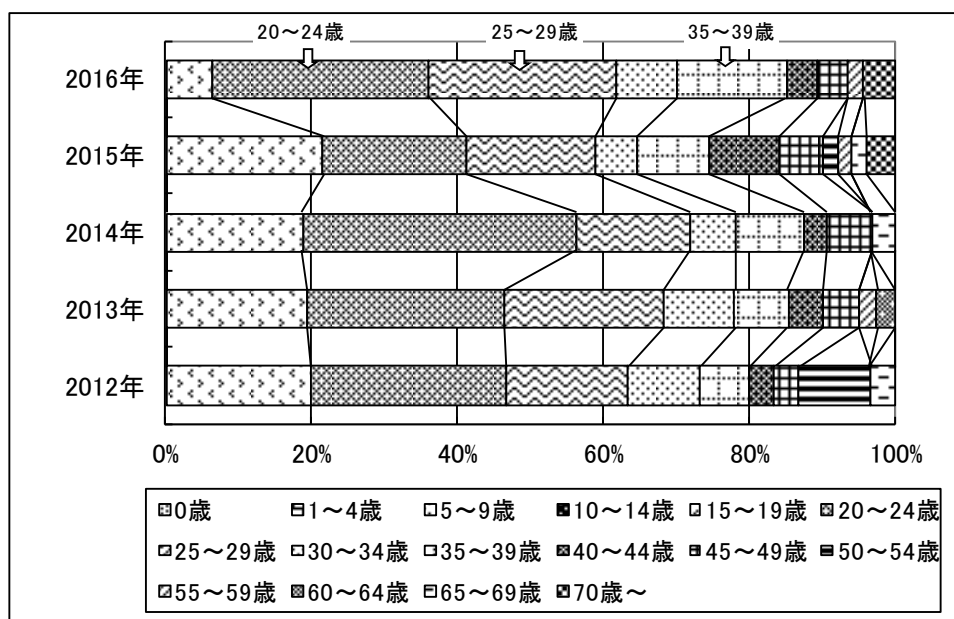


図 28-4 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（女性）



(27) 淋菌感染症

年間患者数は297人（定点あたり6.46人）で、昨年の348人（7.57人）より減少した。性別患者発生割合は、男性84%、女性16%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳22%、25～29歳17%、30～34歳、35～39歳及び40～44歳が13%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は15～19歳27%、20～24歳25%、25～29歳17%の順で多く、15～29歳の患者が女性患者の69%を占めていた。

図 29-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

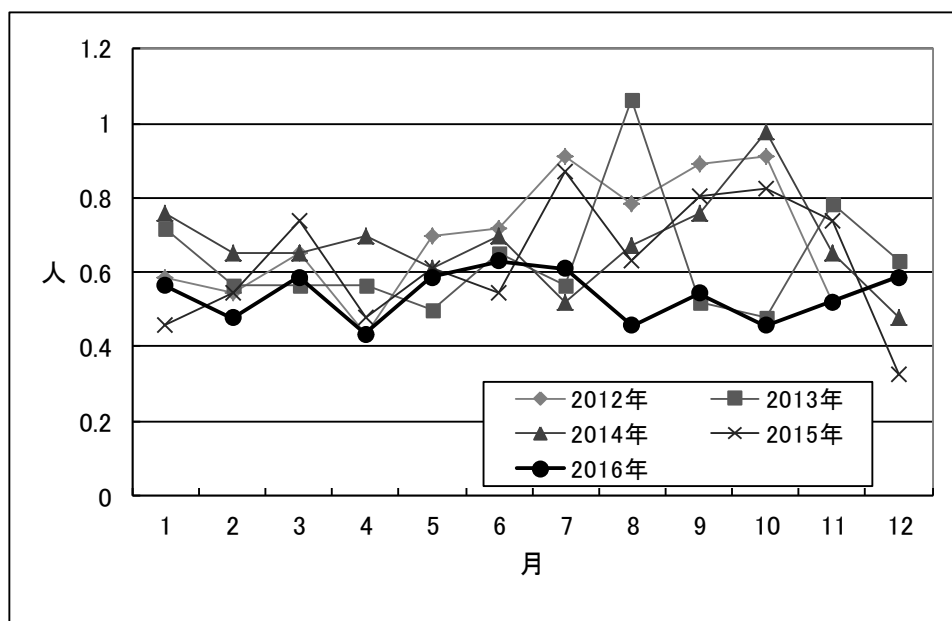


図 29-2 淋菌感染症の性別患者発生割合

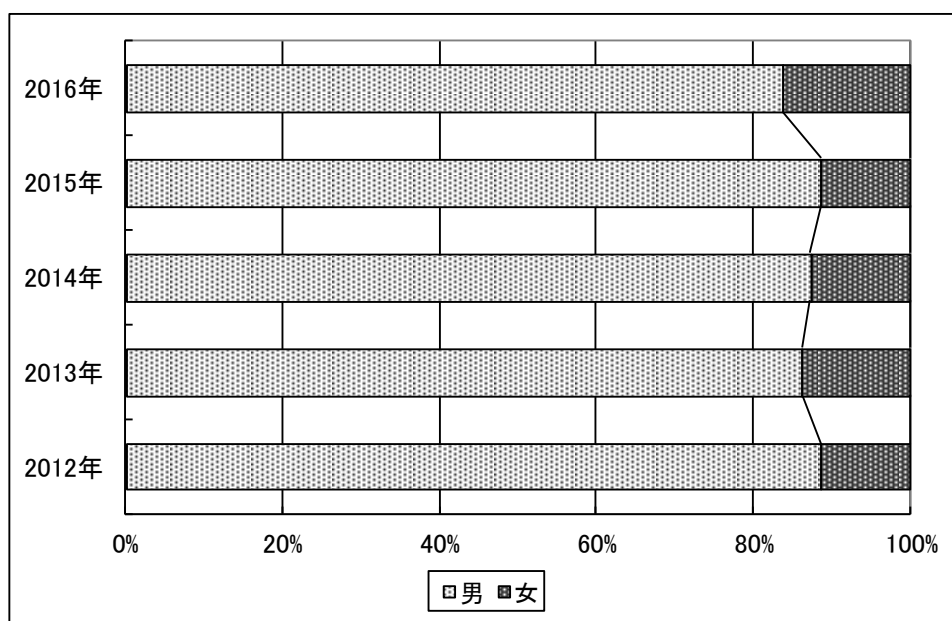


図 29-3 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

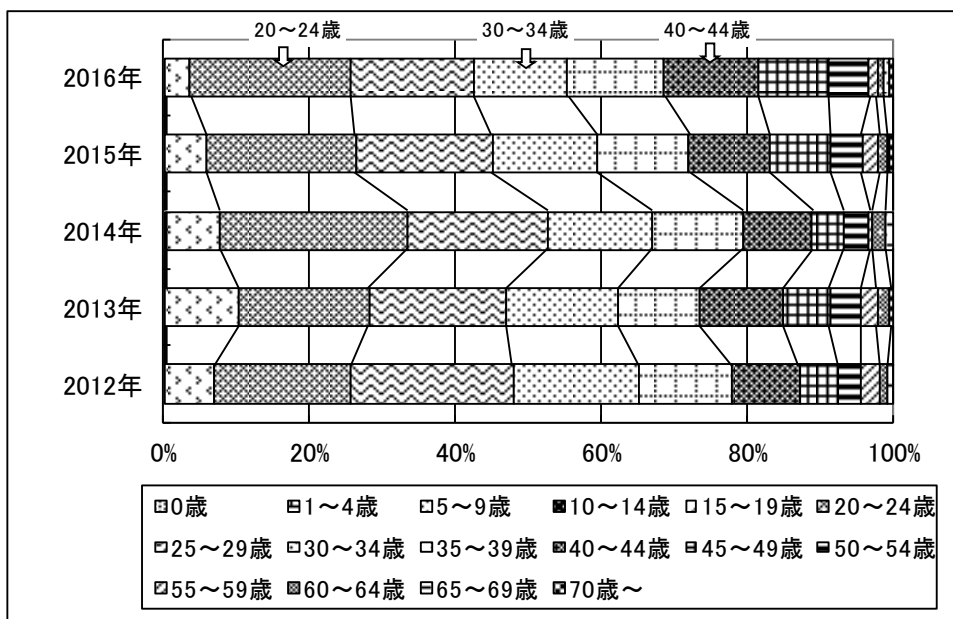
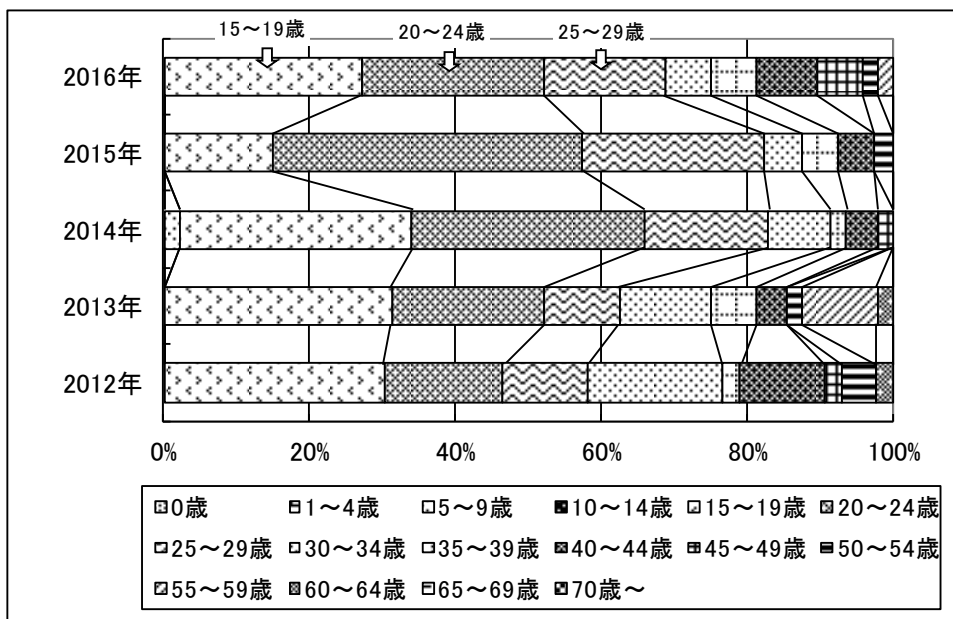


図 29-4 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は451人（定点あたり32.21人）で、昨年の408人（29.14人）より増加した。
 年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の59%、60歳以上が全体の73%を占めていた。

図 30-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

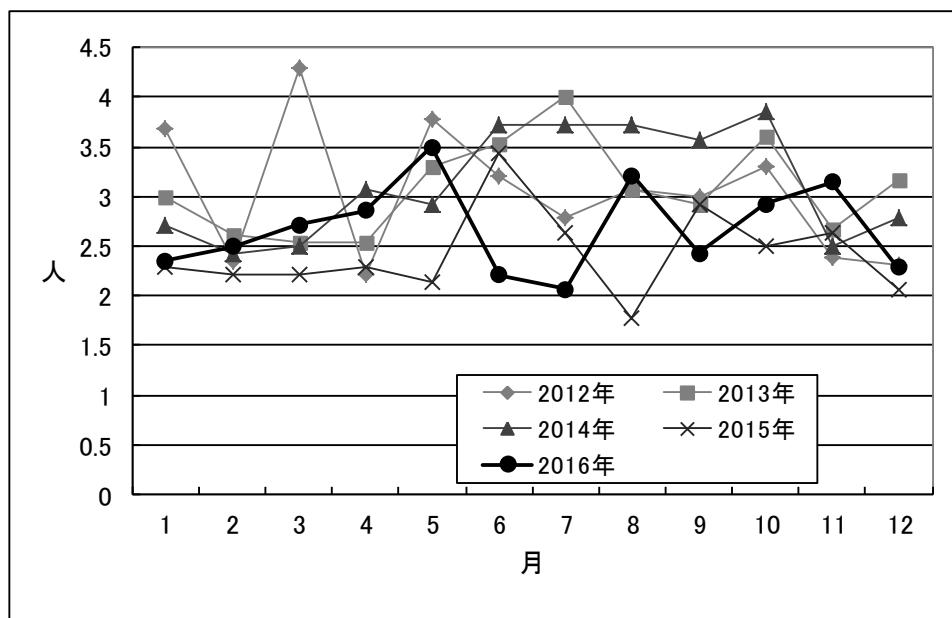
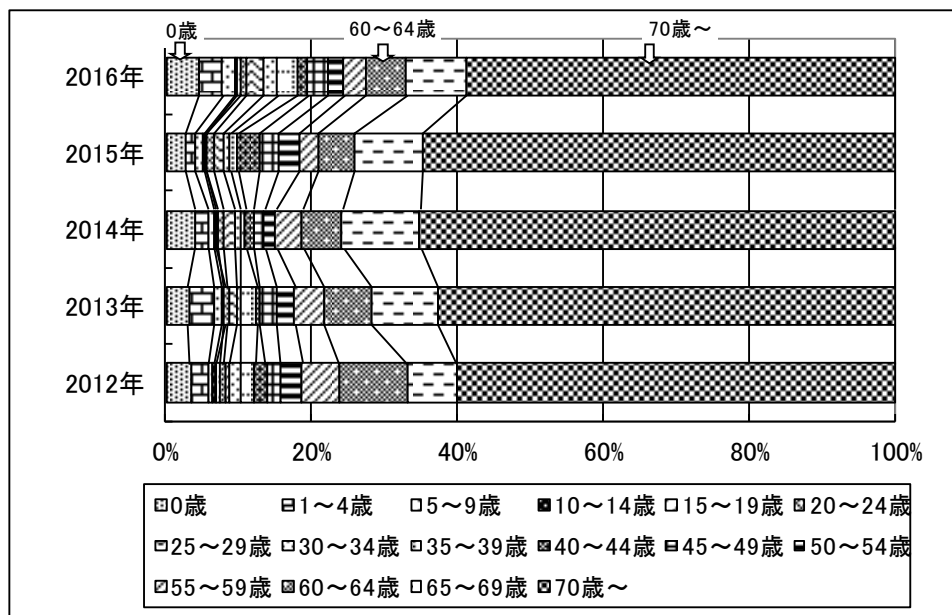


図 30-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は71人（定点あたり5.07人）で、昨年の69人（4.93人）よりわずかに増加した。年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の52%、60歳以上が全体の79%を占めていた。

図 31-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

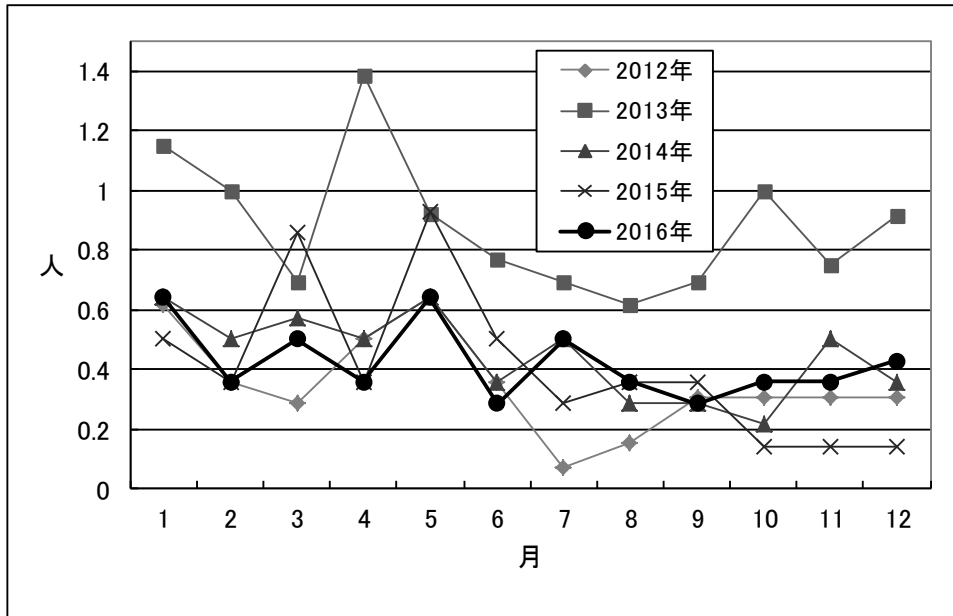
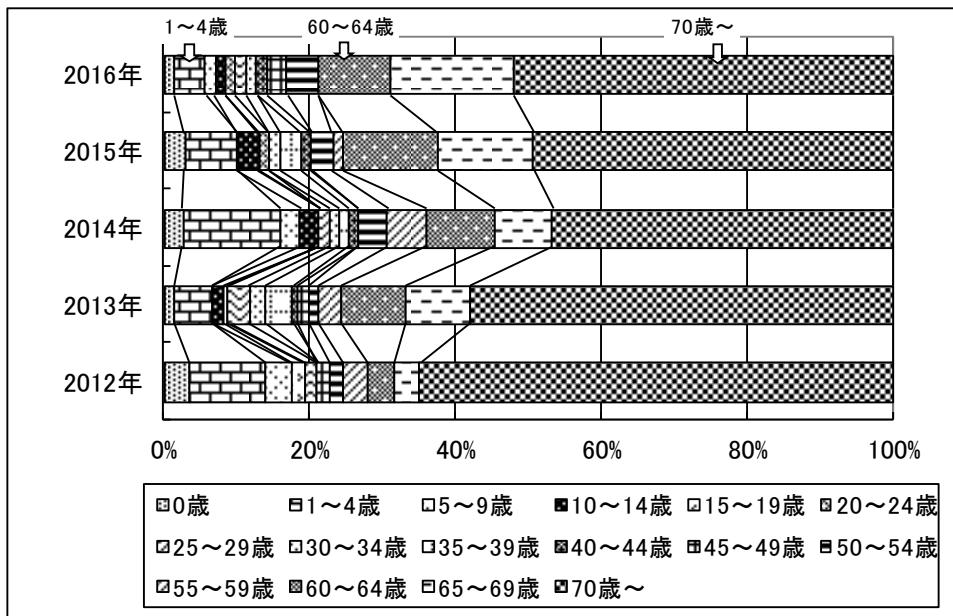


図 31-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は9人（定点あたり0.64人）で、昨年の4人（0.29人）より増加した。
 年齢階級別患者数は70歳以上が7人、50～54歳と65～69歳が各1人であった。

図 32-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

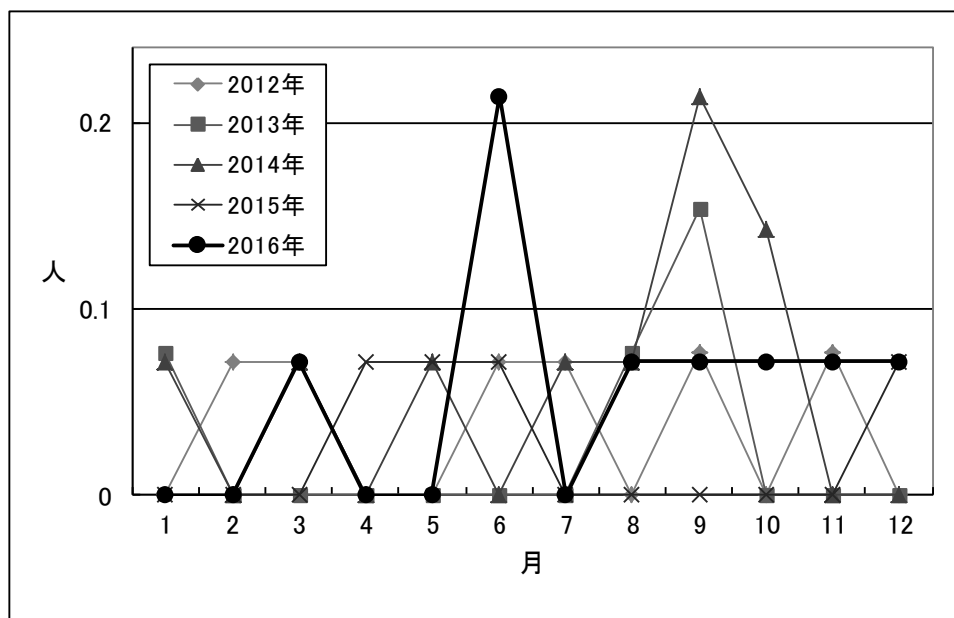


図 32-2 薬剤耐性緑膿菌感染症の年齢階級別患者発生割合

